

■ 会議参加報告

Journal of the Virtual Reality Society of Japan

■ Ubicomp 2005

伊藤誠悟

名古屋大学

2005年9月11日～14日の4日間、東京都港区・高輪プリンスホテルにて国際会議 Ubicomp2005 (The Seventh International Conference on Ubiquitous Computing) が開催された。今回で第7回目の開催となる Ubicomp は Ubiquitous Computing に関する最大規模かつ最難関の国際会議の一つであり、アジア地区において初の開催となる本開催においても、多数の質の高い発表および活発な議論が交わされた。本会議は、招待講演(2件)、Full Paper(22件、採択率約9.6%)、ポスターセッション(47件、採択率約58%)、デモセッション(24件、採択率約60%)、ビデオセッション(7件)、招待デモ(3件)、スポンサーデモ(6件)、および13個のワークショップにより構成された。会議への参加者は600人を超え過去最大であった。

Full Paper における日本からの発表は、NTT DoCoMo の福本氏ら、慶応大学の神武氏らの論文2件が採択された。福本氏らによる“CarpetLAN: A Novel Indoor Wireless (-like) Networking and Positioning System”は、部屋のLAN端子から対象オブジェクトまでの通信に関するラスト1m問題について、人体を介した通信を用いることにより解決を図っている。神武氏らによる“u-Texture: Self-Organizable Universal Panels for Creating Smart Surroundings”は、自己組織化を行うスマートパネルについての研究である。パネルの傾き情報や、周囲のパネルの配置状況などにより自律的にサービスを検索しユーザに提示する。(図1)はデモセッションにおいて紹介されていた利用例であり、形状によりそれぞれのサービスが提供されている(左: Smart Shelf サービス、右: ペイントサービス)。



図1 Ubicomp 2005 デモ

筆者の発表“Orientation Estimation Method and Orientation-Location Based Service Using Wireless LAN”はポスターセッションであり無線LANを用いた方向推定手法について発表した。ポスターセッションやデモセッションにおいては、コアタイム以外の休憩時間においても各場所において非常に活発な議論が行われていた。

第8回目の開催となる次回 Ubicomp は2006年9月17日～21日まで California, USA において開催される予定である。

<http://www.ubicomp.org/ubicomp2006/>

■ ヒューマンインタフェースシンポジウム2005

酒田信親

筑波大学

現在、日本は2007年における団塊世代の一斉定年による作業熟練者の大量引退が社会的な問題になっている。さらに、これから社会を担う層に対する技術伝承は、十分行われていないとも言われている。これらに対して何らかの対策を行わない場合、熟練作業員不足に伴